

授業の組み立て方（例）



1) 絵カードを見て、状況（場面）設定をします。

「何がありますか」「何をしていますか」「何とっていますか」など、質問を投げかけて状況（場面）を想定させてください。参加者がいろんな発話が出てくるようにして、絵に注目するようにして、どういう状況（場面）なのかを設定してください。参加者が全員で状況を共有することがポイントです。



2) 語彙と表現の確認をします。

災害時の日本語に関しては新出語彙は同じでも、意味を理解させましょう。対訳をつけることもいいですが、決まった言葉（例；津波、避難、逃げる など）は必ず日本語で覚えておく必要があります。その語彙を使って話せる日本語の表現は、参加者の日本語レベルによって異なります。講師が事前に日本語レベルによって表現を分けて指導する工夫などを加えると効果的です。語彙や表現は発音・発話練習を繰り返し指導してください。



3) 会話練習をします。

置かれた状況（場面）で、どのような会話を成立させるのか、自発的な会話ができるように、何度も会話練習を行います。また、その状況下で、適切な行動を取ることができることが大切なので、何をしなければならないのかを指導してください。



4) 実際にロールプレイをします。

寸劇のように、参加者が役割を果たせるように指導してください。参加者の日本語能力が異なっても、その能力を引き出して、状況に応じた行動がとれていたかどうかを評価してください。ロールプレイ後は必ず、参加者全員で振り返りをしてください。ロールプレイの会話を参加者がアレンジをしたり、会話の流れが発展して自由に広がることも大切です。講座には消防士や防災士などの現場の専門家も加えるなどして、臨場感を高めたり、他己評価をしたりすることも有効です。